

# 図工・美術研究委員会

## 1 研究テーマ

一人一人が表現の喜びを味わう図工美術学習のあり方はどうあったらよいか  
～モダンテクニックを生かして、自分の思いを表現してみよう～

## 2 研究課題

「友だちと同じように制作しておけば安心。そっくりに描けないから美術は苦手。」という意識を持ち、混色したり、重色したりした色彩の美しさに十分気づけていない生徒たちが、

①混色や重色の美しさが体験でき、活動への意欲がわく表現技法と出会い

②試作を通してテーマを深め ③お互いの表現の良さを学びあう

ことで、「造形的な美しさを見つけ、自分の思いに合わせて、色や形を作り出す喜びを味わうことができる」という仮説を立て、公開授業研究にて実証を試みた。

## 3 実証授業

公開授業研究日	平成20年11月19日(水)
授業会場及び授業者	高山村立高山中学校 河西ゆりか 先生
授業学級	一年一組(三十八名)
助言者	信州大学教育学部 橋本光明 教授
題材名	「デザイン基礎2・モダンテクニックでアートを作ろう」
本時の主眼	デカルコマニーの技法を試し、表現の特色を知った生徒たちが、試作したりお互いの試作を見合ったりすることで、色や形を発見し、工夫を楽しみながら自分のテーマを表現することができる。



### デカルコマニーの技法

吸水性の低い紙の上に絵の具を多めに置く。

紙を二つ折りにして、バレンなどでこする。

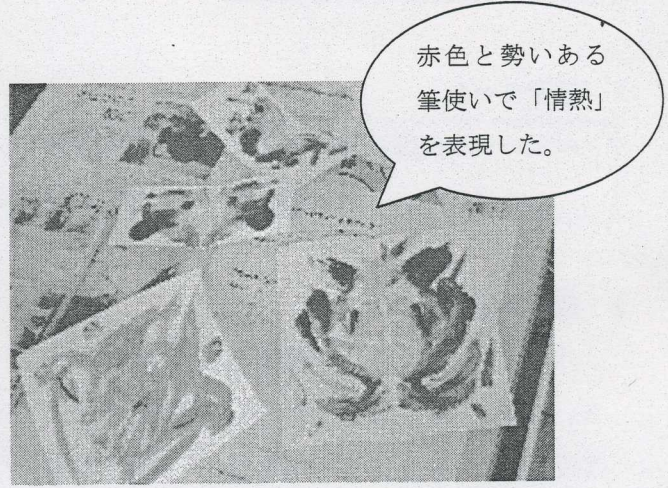
別の色の絵の具で繰り返す。紙の折り方を工夫することもできる。

偶然なできあがりを楽しむ段階から、操作を加えて完成を予想しながらの制作へと進んだ。

単純な行為から複雑な色や形を生み出した。

喜び 怒り 甘い 光 キラリ にぎやか 闇 冷静 ドキッ 希望 派手 情熱 迷い 決心	テーマを選びやすくするために、色のイメージとつながりやすい、名詞(ただし具体物ではなく、概念を表すもの)や形容詞を教師が選び黒板に掲示した。一つの言葉を選び、ずっと追求した生徒と、複数の言葉を選び、順番に試みた生徒がいた。
--	---

#### 4 研究の成果



☆ てだて①に関わって→ テーマに合わせて、色を選び、色の置き方（点で、線で、ばらして、くっつけて など）や、紙のこすり方を工夫する姿が多く見られた。混じりあったり、重なりあったりして生まれた色の美しさを味わうことができた。



☆ てだて②③に関わって→ 制作のスタート時には、与えられたテーマであったり、漠然としたものであっても、試作したり、友だちの評価を得たりしながら、自分にとってこだわりのもてるテーマに深まり、そのテーマに近づくよう工夫して取り組む姿が見られた。また、感想の交換にポストイットを活用したことで、書かれたコメントを何度も見返しながら制作に生かす姿が見られた。鑑賞会で深まった話し合いをするためには、ルールや方法についての学習をし、回数を重ねる必要がある。

☆ 講師からは、「題材の定義と価値・発達段階に応じた具体的な支援のあり方など」多角的な視点からご指導いただいた。

#### 5 来年度への課題

公開授業を担当する授業者と共に研究する推進委員会であることはもとより、子どもたちの実態から授業を構成するためにも、授業校の研究体制を大切にしながら、共に研究を深めていきたいと願う。